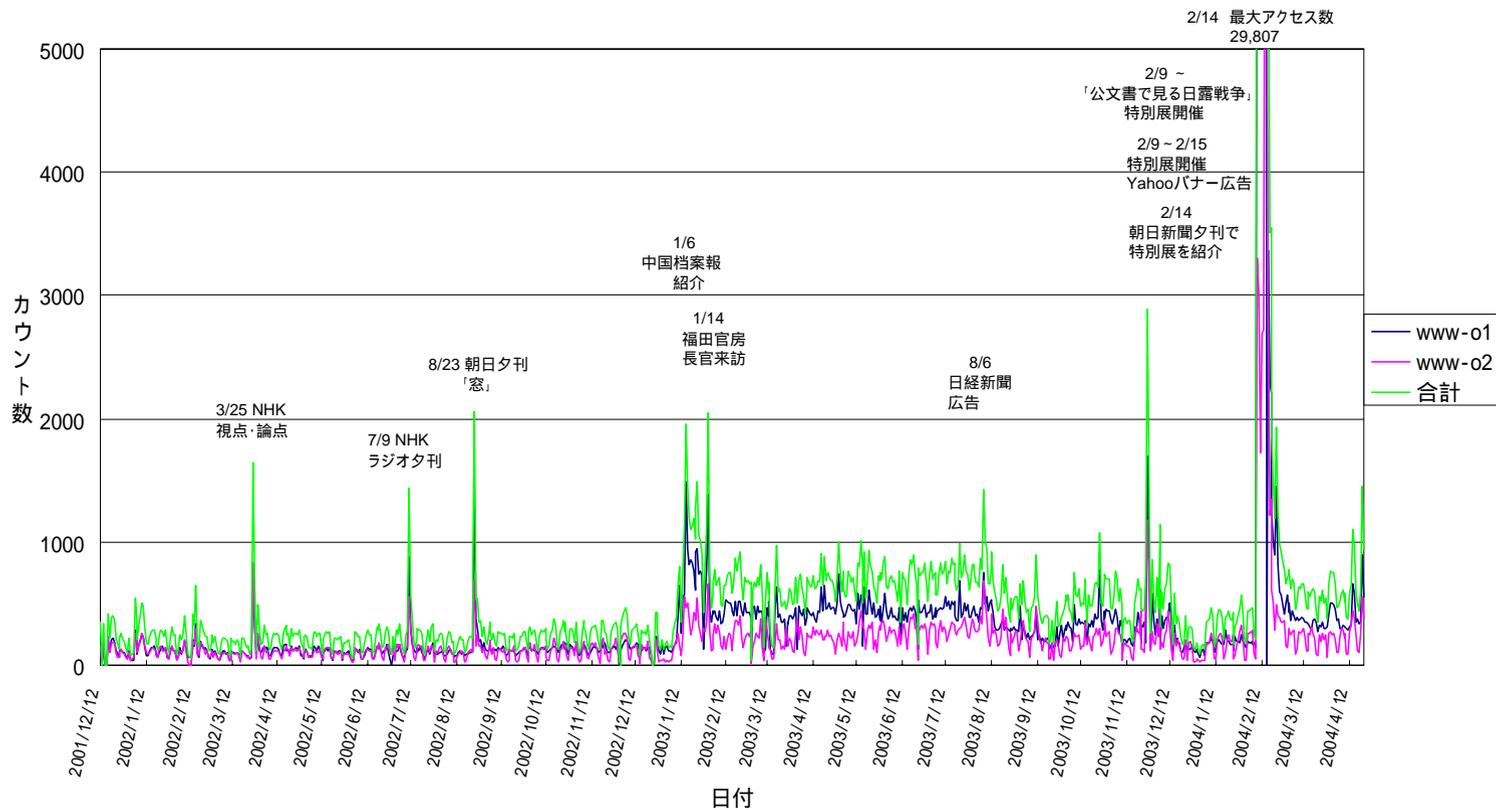


## アジア歴史資料センター ホームページ アクセス状況

	日本語	英語	計	累計
13年12月	10,998		10,998	10,998
14年 1月	7,916		7,916	18,914
2月	6,822		6,822	25,736
3月	7,470		7,470	33,206
4月	7,318		7,318	40,524
5月	6,244		6,244	46,768
6月	6,040	55	6,095	52,863
7月	8,910	712	9,622	62,485
8月	10,824	931	11,755	74,240
9月	7,018	606	7,624	81,864
10月	8,256	832	9,088	90,952
11月	7,792	807	8,599	99,551
12月	7,621	1,216	8,837	108,388
15年 1月	25,860	6,970	32,830	141,218
2月	18,856	3,800	22,656	163,874
3月	16,633	3,885	20,518	184,392
4月	20,585	4,285	24,870	209,262
5月	21,995	4,967	26,962	236,224
6月	20,279	4,141	24,420	260,644
7月	23,169	4,841	28,010	288,654
8月	20,431	3,813	24,244	312,898
9月	12,135	1,368	13,503	326,401
10月	18,099	3,085	21,184	347,585
11月	17,908	2,484	20,392	367,977
12月	12,579	1,460	14,039	382,016
16年 1月	10,207	747	10,954	392,970
2月	137,162	1,083	138,245	531,215
3月	18,010	916	18,926	550,141
<b>合計</b>	<b>497,137</b>	<b>53,004</b>	<b>550,141</b>	

注: 13年12月には11月30日も含む

日本語版  
WWWアクセスカウンタ(01/12/12 ~ 現在)



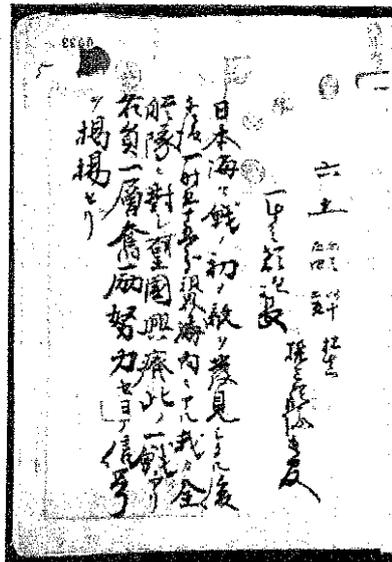


夕刊  
©朝日新聞社 2004年  
〒104-8011 東京都中央区東船場5丁目3番2号  
朝日新聞東京本社  
電話 03-3645-0131

[ 資料4-3 ]

# 日露戦争 ネットで読める

「本日天気晴朗ナシ共波高シ」。日本海海戦の有名な暗号電文など、2月で開戦100年を迎えた日露戦争の公文書類約60点の現物画像が、インターネットで公開されている。研究者が困難に回日もかかってきた貴重な歴史資料ばかりだ。企画したアジア歴史資料センターでは「日露戦争の意味が問い直されている。末、教科書や小説だけでなく、生の歴史を見て、自身で考えて欲しい」と話している。



「日露戦争此一戦三アリ」と書かれた電文  
アジア歴史資料センターのホームページから

## 「波高シ」暗号電文 ポーツマス条約文書

### 公文書類60点

問センターのホームページに、朱印がいくつも押された和紙の書類を「露國興隆此一戦ニアリ」と書かれた画像がある。ロシア・バルチック艦隊との日本海海戦の前に、東郷平八郎指揮の連合艦隊が大本營に送った電文だ。

1904年の「露戦の詔書」、05年の「日露講和条約及追加約款」(ポーツマス講和条約)、それに同年の「講和に関する詔勅」など、歴史の転換点を示す公文書類が次々と出てくる。また、ポーツマス条約締結の場面や、日本海海戦直後の軍艦三笠などの写真も見る事ができる。

### 坂の上の雲

ユニークなのは、日露戦争を題材にした司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」に登場する人物や場面にわかる資料を集めていることだ。開戦100年をきっかけに、日露戦争前後の日本の状況について活発に議論され、「坂の上の雲」を再評価する声も多い。「小説は事実を事実として知って欲しい。見た人がほっとけない資料をそろえた」と担当者は話す。さらに内容を充実していくという。

### 授業利用を

問センターは、村山実市首相(当時)が04年に発表した構想を元に、アジア諸国と歴史認識を共有する土台作りをするため、近現代史に関する資料を広く収集して2年前

にオープンした。情報技術(IT)を利用し、国の機関が保管する原資料をインターネットを通じてパソコン画面上で無料提供する。世界でも類を見ない歴史資料館だ。現在、国立公文書館、外交史料局、防衛研究所図書館が所蔵する資料約450万画像を公開。日露戦争関連だけでなく、明治から第2次大戦終結までの公文書類をだれでも検索、閲覧できる。

同センターのアドレスは<http://www.jac.go.jp/>

石井米雄センター長は「情報公開は民主主義の基礎だ。日露戦争でも、ラフ戦争でも情報があり方々議論になった。戦争をめぐるといっては、現在もあまり変わっていないのではないか」と話している。

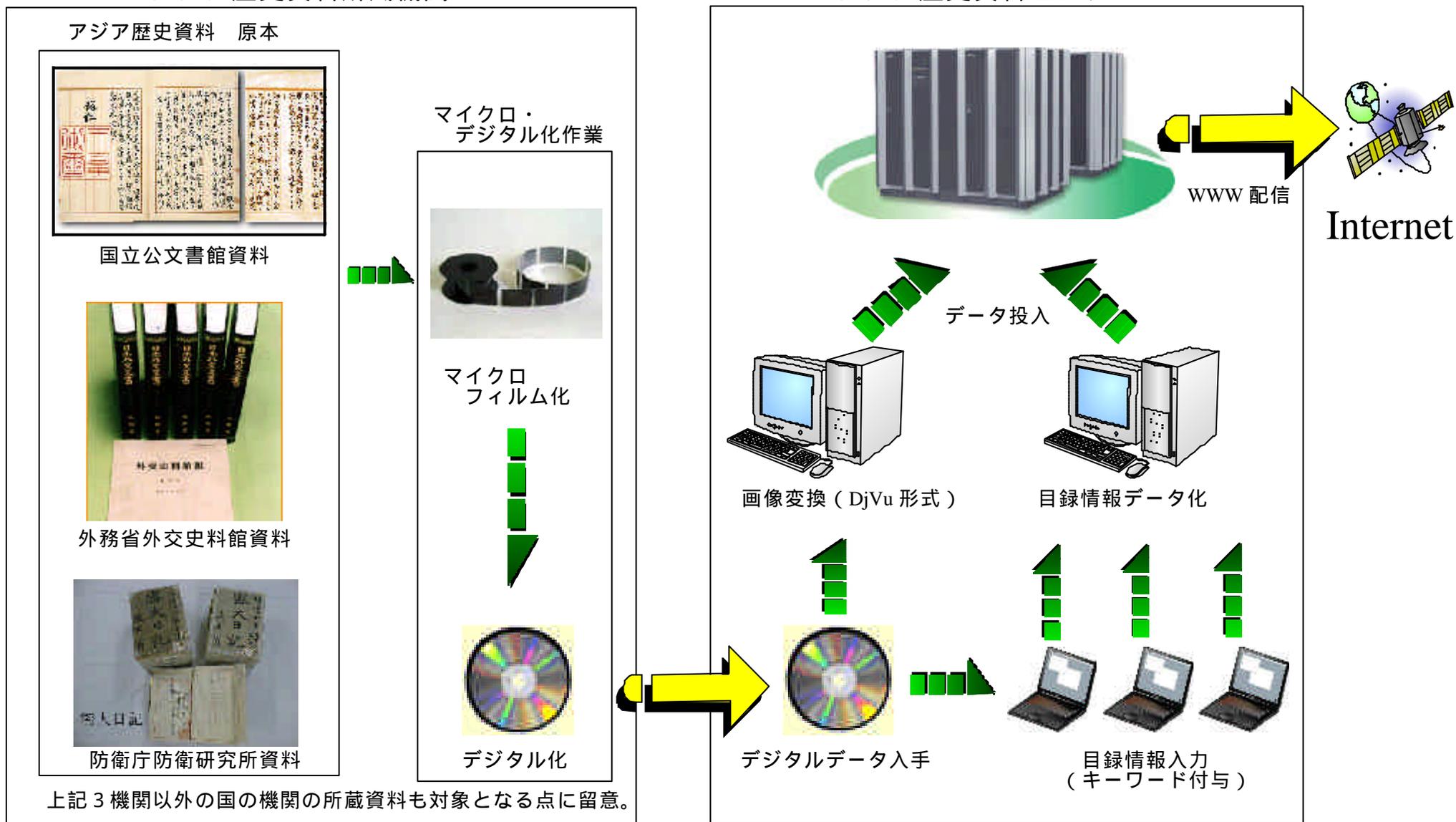
まの知られていない。今

## アジア歴史「生の歴史を見て」 資料センター

# アジア歴史資料情報提供の流れ

## アジア歴史資料所蔵機関

## アジア歴史資料センター



**アジア歴史資料センターデータベース構築計画  
(整備作業繰上げに伴う修正コマ数)**

(単位:コマ)

	国立公文書館	外交史料館	防衛研究所図書館	合計 / 累計
H 12	122,000	660,000	1,150,000	1,932,000 / 1,932,000
H 13	720,000	735,000	890,000	2,345,000 / 4,277,000
H 14	160,000	855,000	1,150,000	2,165,000 / 6,442,000
H 15	450,000	750,000	1,530,000	2,730,000 / 9,172,000
H 16	450,000	1,000,000	1,530,000	2,980,000 / 12,152,000
H 17	450,000	1,000,000	1,530,000	2,980,000 / 15,132,000
H 18		1,000,000	1,530,000	2,530,000 / 17,662,000
H 19		1,000,000	1,530,000	2,530,000 / 20,192,000
H 20		1,000,000	1,530,000	2,530,000 / 22,722,000
H 21		1,230,000	1,530,000	2,760,000 / 25,482,000
H 22			1,530,000	1,530,000 / 27,012,000
H 23			1,530,000	1,530,000 / 28,542,000
H 24				
H 25				
H 26				
<b>Total</b>	<b>2,352,000</b>	<b>9,230,000</b>	<b>16,960,000</b>	<b>28,542,000</b>

(注) 当初の構築計画(H13.11.13連絡調整会議承認)では、平成26年度までに画像データを27,000,000コマ整備する予定であったが、その後、整備計画を精査した結果、国立公文書館の新たにアジア歴史資料として判明した資料を加え、上記のとおり整備作業を繰上げる計画を各館との間で合意した。なお、この数字は、あくまで現時点で各館において詳細が判明している資料のコマ数である。今後各館に移管される資料の中にもアジア歴史資料として重要と思われるものが含まれてくる可能性があるため、各館の資料整備状況によっては、本計画上の数量の変更があり得る。

アジア歴史資料センターデータベース構築計画  
(追加修正)

(単位:コマ)

	国立公文書館	外交史料館	防衛研究所図書館	合計
H12	210,000	923,000	1,150,000	2,283,000
H13	130,000	923,000	1,150,000	2,203,000
H14	<u>100,000</u>	923,000	1,150,000	<u>2,173,000</u>
H15	<u>100,000</u>	923,000	1,150,000	<u>2,173,000</u>
H16	<u>100,000</u>	923,000	1,150,000	<u>2,173,000</u>
H17	<u>100,000</u>	923,000	1,150,000	<u>2,173,000</u>
H18	<u>100,000</u>	923,000	1,150,000	<u>2,173,000</u>
H19		923,000	1,150,000	2,073,000
H20		923,000	1,150,000	2,073,000
H21		923,000	1,150,000	2,073,000
H22			1,150,000	1,150,000
H23			1,150,000	1,150,000
H24			1,150,000	1,150,000
H25			1,150,000	1,150,000
H26			860,000	860,000
<b>Total</b>	<b><u>840,000</u></b>	<b>9,230,000</b>	<b>16,960,000</b>	<b><u>27,030,000</u></b>

(注)

・この計画上の数量は、現時点で把握している数量であり、各機関におけるアジア歴史資料の今後の増加等によっては計画上の数量を変更する場合がある。

・国立国会図書館(憲政資料室)の保管するアジア歴史資料(550万コマ)のマイクロ・デジタル化については同館と要調整。

・国立公文書館所蔵のアジア歴史資料については、現在判明している約84万コマを平成18年度までにマイクロ化・デジタル化する。

## モニターアンケート集計結果概要（平成 15 年度：前期）

アジア歴史資料センターでは、平成 15 年 9 月から 10 月にかけて、モニターアンケート調査を実施した。アンケート回答数は 30 名、全 50 問を集計した利用状況等は次のとおり。

## 1. 利用環境

通信手段では ADSL (49%) 接続が多数を占める。また他のブロードバンド通信 (CATV と FTTH (光ファイバ)) の割合も昨年度 9% から今年度 24% と増加し、右を含めたブロードバンド化 (計 73%) が進んでいる。

利用目的は興味目的 (47%)、研究目的 (43%) の順。昨年度は研究・論文執筆目的 (76%)、興味目的 (16%) であったことから、今年度は興味から閲覧されている方が増加している。

利用時間帯・使用場所は、夜間 (60%)・自宅 (87%) が多数を占める。

## 2. 広報

センターの認知手段については、知人等からの紹介 (30%)、ネット検索 (30%) が同割合で、昨年度は知人等からの紹介 (66%)、ネット検索 (10%) であることから一般のユーザーがネット検索で知る機会が多くなっている。

## 3. ホームページ

トップページの印象については、「色・デザイン等が良い」(41%)、「全体的に良い」(33%) 等好意的な意見が 74% を占め、理由として、「アジア的なデザインである」との意見が多い。

その他の画面についても、「役立つ」、「良い」との評価が、ほぼ半数以上を占める。

## 4. 検索手法

検索手法の利用頻度については、「キーワード検索」、「キーワード詳細検索」、「階層検索」、「レファレンスコード検索」の順で利用されている。

利用頻度の低い「レファレンスコード検索」については、頻繁に利用するユーザーにとっては「資料を迅速に特定できで便利」との意見があり、また「階層検索」は使い慣れない者に対して、各資料館の「階層」をマップ表示するなどの工夫を期待する意見もあった。

## 5. 目録表示

目録の項目については、「十分である」(81%)が多く、今年度から利用できるようになった英語目録への直接切り替えリンク機能の利用者は 7% であった。

目録の改善項目として、冒頭 300 文字では検索に外れる場合もあるので「全体からキーワードを取った方が良い」、「資料の出所をできるだけ記入してほしい」等の回答があった。

## 6. 画像表示

DjVu のインストールについては、「支障なく実行できた」(89%) がほとんどであった。使用機種は「Windows XP」(47%)、「Windows98」(20%) であった。

画像表示の機能については、「満足」(92%) との回答が多くを占めた。改善点としては、「印刷時の設定」に関する意見があったので、アンケート終了後、「初心者のための利用方法」に「印刷と保存」の説明を新たに追加した。

## 7. 資料内容

資料内容については、「現在公開中の資料に利用したい資料が含まれている」が 36%、「今後公開予定の資料に利用したい資料が含まれている」が 48% となりました。今後も引き続きユーザーの要望を積極的に取り入れて公開資料の選択を実施する予定。

資料所蔵館を直接訪ねて閲覧したことがあるかについては、「ない」(89%) が多数を占め、「遠隔地のユーザーからはその機会が限られる」との理由が多くあり、また、「ある」と回答された中には、「目録資料が所蔵館での資料閲覧に役立った」との回答もありました。

## 8. まとめ

センターの評価については、5段階評価で 4.03 となり、昨年度の 3.91 を上回った。理由としては、「積極的に資料を無料公開している」、「検索機能の充実により直接所蔵館を訪ねるより効率が良い」等が評価された点であり、一方、不十分な点としては、「全体から見れば画像数がまだ少ない」、「一般の人にとってはまだセンターのサービスが興味を持てるものとなっていない」などがあつた。

以上

## モニターアンケート集計結果概要 (平成 15年度 :後期)

アジア歴史資料センターでは、平成 16年 3月 10日から 3月 21日にかけて、後期モニターアンケート調査を実施しました。アンケート回答数は 65名で、全 50 問を集計した利用状況等は次のとおり。

## 1.利用環境

通信手段では、ブロードバンド通信サービスである「ADSL」(61%)、「CATV」(10%)、「FTTH (光ファイバ)」(6%)の3つを合わせると77%であった。平成 14年度と同集計は61%、平成 15年度前期の集計は73%なので、少しずつブロードバンド化が進んでいる。

利用方法の項目では、「歴史への興味」(50%)、「月 1 ~ 3回」(66%)、「夜間」(58%)、「自宅から」(75%)、「1時間程度利用」(49%)、がそれぞれ 1位を占めました。また、利用目的では上記の「歴史への興味」(50%)に続いて、「研究目的」(34%)が 2位、「学習勉学」(7%)が 3位となっています。

## 2.広報

センターを知った方法については、前期調査では「ネット検索」(30%)でしたが、今回は「ネット検索 (バナー広告含)」(48%)、「新聞 雑誌記事」(25%)の順となりました。これは「公文書で見る日露戦争」特別展開催(2月9日)に伴いYahoo バナー広告を行い、かつ朝日新聞夕刊トップに掲載されたことが大きく寄与しており、モニター応募時期を見ても、特別展開催後が94名(全154名)でした。

## 3.特別展について

内容については、「満足」(72%)となりました。次回特別展のテーマ希望については、「2国関係 (米・中・韓等)」、「地域 (満州・琉球・シベリア等)」、「人物 (天皇・明治の元勳等)」、「制度 (学校制度・対外文化事業等)」などに焦点をあててほしい、との意見が多く寄せられました。また、このようなテーマ別検索が出来ることにより「一般のユーザーの利用頻度が高まる」との意見も頂きました。

## 4.ホームページ

ホームページの評価については、各ページについて「良い」が半数以上を占め、主な改善点は「上部フレーム部分が見にくい」、「階層検索の説明がわかりにくい」、「資料についてもっと具体的な資料名と説明がほしい」、「センターの資料の公開基準を明示すべきである」等の意見があった。

## 5.検索手法

検索方法利用頻度は、「キーワード検索」(68%)、次に「階層検索」(17%)の順。また複数の検索手法を組み合わせる方も多く、「キーワード検索」から「階層検索」、「レファレンスコート検索」を組み合わせる等の回答が複数ありました。また、新たに「テーマ別検索などの初心者にもわかりやすい検索を取り入れてほしい」等の意見もありました。

## 6.目録表示

目録の項目については、「十分である」(62%)が多数になりましたが、「冒頭 300 文字検索では不十分で理想的には全文検索ができる」と良い、「解説も項目に入れてほしい」等の意見もありました。

## 7.画像表示

画像表示ソフトDjVuのインストールについては、「順調に行えた」(78%)が多数であり、手間取った方からは「端末のセキュリティ設定を変更すると旨く行った」という報告がありました。

DjVuの操作性については、「満足」(76%)が多数を占めました。改善点として、「もう少し画像表示が早くなるか」、「印刷プレビューが見られるようにならないか」等の意見がありました。

また、画像の質の項目では「十分である」(58%)が多数でしたが、「カラーであれば資料の状態までわかるのではないか」、「PDF 画像表示形式でも良いのではないか」との意見もありました。

## 8.資料内容

現在公開中の資料内容については「利用している資料がある」(35%)、また今後公開予定の資料群に「利用したい資料がある」(22%)という結果になりました。今後公開対象にしてほしい具体的な資料についても回答を得、ユーザーの希望も参考に公開資料の優先順位を決めていく予定です。

## 9.まとめ

センターの評価については、5段階評価で3以上の回答が95%を超え、前回までのアンケートと同様「概ね良い」という結果が得られました。理由としては、「資料のインターネット公開は歴史的な意義がある」、「地方の者にとっては大変便利である」、「公開性・先進性・改善意欲を評価する」等の意見がありました。また、あまり評価できない理由としては、「資料の公開数がまだ少ない」、「全体的に専門家向けであり素人には使いにくい」などの意見があった。全体的なご意見・ご要望として、「取り扱う資料の時代を広げてほしい」、「テーマ別の展覧会形式を増やせば一般の人の関心を引けるのではないか」、「資料自体が難解なので解説の充実を望む」等の意見がありました。

以上